

小栗京子 きやうこ 俳人。明治四十一年十月二十四日神奈川県藤原市生れ、昭和十一年四月二十日歿（九九一三六）。本名幸枝。豊橋高等女學校卒、更に補修科を修了し小樽校止教員免状を受く。昭和八年結婚するも妊娠中一年を經ず離婚。翌年女兒を出生し暮ら喪ふ。その後二年餘り兄の業を手傳ふなどしてゐたが、豊橋驛近くの鐵路に投身。

俳句は二年二十歳の折鈴木鵬子の手引で始め、のち市川丁子に師事してその手幸誌『三河』に據り、白田亞浪の『石楠』にも投稿。遺稿集

『五月艸の雨』（昭和十一年七月二十日愛知・三河発行所）は丁子編、また太田鴻村による作話解説、川島ゆりの追憶文等を含む。

